

「政府への GoTo トラベル等中止の勧告」

栗屋 剛

(釧路市議会[2020年度12月議会]発言記録 (2020年12月2日))

今、日本では新型コロナウイルス感染が爆発的拡大の様相を呈し始めています。新型コロナウイルスのような未知のウイルスを甘く見る危うさ、愚かさが露呈してきています。世界も同様ですが、ここでは、世界のことはおいておきます。

私は、言うべきことを言わないのは言わなくてもよいことを言うことより悪質だ、との信念に基づいて、無理を承知で言います。最初に、結論となるべき要望を簡潔に申し上げます。GoTo トラベルや GoTo イートなどの政策を中断するよう、釧路市として、できれば近隣市町村と連携して、国に要望していただきたい。

以下、この要望の根拠となる情報や私見を申し上げます。

ウイルスは風に乗って中国やアメリカからやってくるわけではありません。当然のことですが、新型コロナウイルスを含めてウイルスは、人や動物を媒体として移動します。つまり、ウイルスは基本、人や動物が移動することによってのみ移動できます。そして、人と人が接触することによって感染します。

まず第一に、「人の移動」に着目すれば、人間や動物が移動しなければウイルスは運ばれない。つまり、人間は「運び屋」です。新型コロナウイルスは人間というその運び屋がいないと広がりません。ただし、ごく最近、ウイルスの変異によるものと思われませんが、動物（とくに、「ミンク」）も新型コロナウイルスに感染したという報道がありました。ということは、新型コロナウイルスの場合、人間だけでなく動物も運び屋になれた（なった）ということです。ただし、生きたミンクはあまり国際移動はしません。

そういう意味で、GoTo トラベルはまさに新型コロナウイルスの拡散の手段となっています。新型コロナウイルスにとってはとてもありがたいことだと思います。

第二に、「人と人との接触」に着目します。ウイルスは、飛沫感染や空気感染も含めて、人と人との接触がなければ感染することができません。そういう意味で GoTo イート、とりわけ複数人での飲食は、ウイルスにとってはとても有効な感染の間接的手段です。

もちろん、新型コロナウイルス感染の原因は GoTo トラベルや GoTo イートなどだけではないでしょう。それらによる人々の気の緩みも原因でしょう。もちろん、ウイルスの変異（例えば感染力アップ）もあるかもしれません。ただ、GoTo トラベルや GoTo イートなどが原因の一つであることは間違いありません。

もともと、コロナ禍は、天災ではなく、人災なのです。確か、野党の党首の方が、GoTo トラベルなどを視野に入れて、「第三波は人災だ」とおっしゃっていましたが、第三波だけではなく、コロナ禍そのものが人災なのです。武漢の特定の人の特定の行為が発端になっているから、などという意味ではありません。自然を作り直し、表現を変えれば、それを壊し、動植物を搾取し、人間世界の矛盾を放置し、さらには、グローバル経済を押し進めて来た現代文明そのものがコロナ禍を生み出した、という意味において、それは人災なのです。

さらに言えば、インバウンドを含めてグローバル経済そのものが、間接的であれ、コロナ禍の大きな原因の一つです。表現を変えて言えば、そして、端的に言えば、それは言わ

ば、コロナ禍の「温床」なのです。その代償はあまりに大きい。私はこのことに気づいた時、愕然としました。なぜなら、私の議会での主張を含めて、私が釧路でやろうとしてきた、そしてやろうとしていることは、まさにインバウンドを大前提にしているからです。

ここでは、そのことはおきます。GoTo トラベルなどの政策自体が利権がらみでうさんくさい、やるべきではなかった、などという批判もありますが、それらはおくとして、GoTo トラベルなどを実施するとしても、完全にコロナの息の根を止めてからやるべきだったのです。しかし、現実には、収束しないうちに開始してしまった。そうするとまたコロナが息を吹き返すのは誰が考えてもわかる理屈です。スポーツ選手が、怪我が治りきらないうちにスポーツを再開するとどうなるか。骨が折れてうまく繋がらないうちに再開するとどうなるか。例えば悪いかもしれませんが、同じことです。

GoTo トラベルや GoTo イートはブレーキとアクセルを一緒に踏む政策と言われていきます。ここでは、多少の犠牲者、つまり死者が出ても仕方がない、ということが含意される政策自体の是非が問われなければなりません。すでに犠牲者は、その総数はわかりませんが、出ています。「証拠がないから継続する」という神経が私には理解できません。当然ながら、調べなければ証拠はいつまでも出てきません。GoTo トラベルや GoTo イートなどの「とぼっちり」で亡くなった人は絶対に浮かばれません。私も、釧路～岡山を含めて出張などの移動が激しいですが、政策の誤りや過ちで死にたくない。それでは死んでも死にきれない。経済はいずれ回復するでしょうが、失われた人命は、そして、失われる人命も、戻らない。

政府は、最大限の警戒感を持って GoTo を推進する、と言います。コロナ撲滅に向けて政府と国民が総力を挙げて立ち向かう必要があるのに、「経済と命のバランス」などと生ぬるいことを言っている場合ではないのです。辻褄合わせの政策を行う余裕など、ないはずです。我々国民は、こういう政策には最大限の不信感をもって、警戒する必要があります。どの国でも、いつの時代でも、政府の愚策や駄策や無策の犠牲になるのは国民です。政治に、愚弄とまでは言いませんが、翻弄されるのは我々国民です。

中国の聖人、孔子は論語で、「過ちては改むるに憚ること勿れ」と言っています。これは、過ちを犯したことに気づいたら体裁や対面などにとらわれず、ただちに改めるべきだという戒めです。政府はメンツに拘ってはいけないと思います。

最後に、繰り返しますが、GoTo トラベルや GoTo イートなどの政策を中断するよう、釧路市として、できれば近隣市町村と連携して、国に要望していただきたい。請願か嘆願か、方法はいろいろあると思います。国のやることには逆らえない、逆らったら損をする、国からの補助金が減る、覚えが悪くなるなど、一時的にはいろいろデメリットがあるかもしれませんが、それらは甘受せざるを得ないリスクです。それより、これ以上コロナを拡大させないことの方がはるかに大事です。日本医師会なども GoTo に懐疑的な見解を示しています。今こそ、地方自治体として声を上げる時です。そうすれば、コロナ退治のきっかけを作った市として、釧路市は永久に、歴史に名が残ることとなるでしょう。

以上のような見解に対する市のお考えをお示し下さい。そして、取り上げていただけるよう、切に、要望します。